◎ゲーテの言葉　「根本現象（Urphänomen）」　　　　　令和４年９月４日

●高橋義人「根本現象とは何か」

　言うまでもなく千利休は、小津安二郎よりもはるかに前に、日常生活のなかにある真実を 浮かび上がらせ、それを茶道という「道」にした。だから千利休は偉大である。

　ゲーテも同じである。反復される日常的で本質的な現象をいつくしむようにして見るこ と、それが大事だ。これがゲーテの根本現象の根底にある思想、当たり前のようでいて、た いていは忘れられている思想なのである。

　「純粋」を夾雑物のない本質的な動きと捉えれば、その後、ゲーテが自然を研究するに際しても「純粋な動き」を注視したことが分かるだろう。自然界における「純粋で本質的な動き」、それをゲーテは「根本現象」（Urphänomen）と名づけた。

　「**根本現象は多様な結果を解明してくれる根本的な法則と同等視されるべきではなく、そのなかに多用なものが直感される根源的な現象（Grunderscheinung）である**と考えられるべきなのです。（C・D・フォン・ブッテル宛書簡、1827.5.3）

**根本現象は「法則Grundsatz」ではない。「現象」だ**とゲーテはいう。「現象」がイタリックになっていることに注意してほしい。法則とはたとえば言葉や方程式で言い表されるものだが、それに対して「現象」は目に映じる自然の動きのことである。先に述べた「純粋」理念の経験においてゲーテは、一片の食物を口に入れる動作のなかに「純粋」を見たが、その彼はいまや自然の動き、さまざまな現象のなかにもその純粋なすがた、本質的なすがたを見てとることができるようになっている。

［茶道、日常のやりとり、仕事などすべてを貫いている本質的な姿、このような何かをゲーテは「Urphänomen」と名づけた。］

●エッカーマン著『ゲーテとの対話』（晩年のゲーテへのインタビュー集）

●1831年2月14日（中）

**モーツァルトのような出現は、つねに解きがたい奇蹟bleibt immer ein Wunderであるにちがいない**。

・1828年3月11日（下）

天才というのは、神や自然の前でも恥かしくない行為、まさにそれでこそ**影響力をもち永続性のある行為を生む生産力にほかならない**のだ。モーツァルトの全作品は、そうした種類のものだ。あの中には、世代から世代へと働きつづけ、早急には衰えたり尽き果てたりすることのない生産力があるのだよ。そのほかの偉大な作曲家や芸術家についても同じことがいえるよ。**フィディアス**やラファエロは、その後何世紀にもわたって影響を及ぼしたではないか！…**生産的な影響を与えつづけないような天才は存在しない**からだよ。

・●1831年6月20日（下）

モーツァルトがドン・ジョヴァンニを作曲した、などとどうして言えようか！　作曲する――まるで卵と小麦粉と砂糖をこねあわせてつくる一片のケーキかビスケットででもあるかのようだ！――それは、部分も全体も**ひとつの精神から一気に注ぎだされ、ひとつの生命の息吹につらぬかれた精神的な創造なのであって、製作者はけっして、試みをおこなったり、継ぎはぎをしたり、恣意的な処置をほどこしたりはしていない。彼の天才のデモーニッシュな精神が彼を支配し、彼はこの精神の命ずることを遂行するよりほかなかったのだ**。（渡辺健訳）

［このような人間わざを越えた作品、その生産的な影響力、デモーニッシュなもの、この別の言い方が根源現象］

・1829年2月18日（中）

**人の到達しうる最高のものは、驚嘆Erstaunenするということだよ**。もし**根源現象を見て驚嘆させられたら、それで満足するがいいんだ**。**それ以上のものは与えられない。またそれ以上探求すべきではない**。**ここに限界がある**んだ**hier ist die Grenze**。しかし人々は通例、根源現象を見ただけでは満足せず、まだ先を分かろうと考える。鏡を覗いてすぐに裏の方に何があるかと、返してみる子どものようなものだ。」（kindle、亀尾・上妻訳）

・1831年2/23（中）

**神は一切の生物を貫いている。そして人は、最高者たる神の部分を感じるほどまでに、神的なものを多分に持っているものだ**。（kindle、亀尾・上妻訳）

・1827年４月18日（下）

**美は根源現象だ**。

それ自身は現れないが、その反映は無数の雑多な創造的精神の発現の中に見られる。そして自然そのもののように多種多様だ。」（kindle、亀尾・上妻訳）

・1830年1/27（下）

螺旋状傾向という彼（フォン・マルティウス氏）の巧みな思いつきは、きわめて重要なことだよ。なお彼に望むことがあるとすれば、それは、**彼の発見した根源現象を大胆に断乎として押し進めること、あまりくどくどと証明したりせずに、一つの事実を法則だと言いきるだけの勇気Courageを持つことだね**。（山下肇訳）

彼の旋回的傾向の発見は、きわめて重大なものだ。なお彼に望むことがあるとすれば、彼が**発見した根本現象を断固として主張し、あまりくどくどと証明したりしないで、事実を法則として述べるだけの勇気を持つこと**だ。（kindle、亀尾・上妻訳）

・1829年2月13日（中）

神性Gottheitは根源現象の中に物理的あるいは論理的に現れる。

　神性は根源現象の背後に潜み、根源現象は神性から流れ出る。

**神性は生けるものの中に働いているが、死せるものの中にはない。生成し変化するものの中にあり、完成した凝固したものの中にはない**。それ故理性は、神々しいものに達するために、成長するもの生きている者を対象として、悟性は彼が利用しうる完成したもの凝固したものを対象としなければならない。（Kindle亀尾・上妻訳）

　訳者注：書簡でゲーテは「根源現象とは、その内部に多種多様なものが見られる根本現象である。人間が宇宙に触れるあらゆる感覚は困難であっても**天職を果たそうとすれば共に作用するはずのものだ**。」と書いている。

◎ゲーテ『ウィルヘルム・マイスターの遍歴時代』３巻18章「マカーリエの文庫から」

芸術は目で見たものをそのまま模倣するのではなく、自然がそれによって成り立ち、それに従って自らを律するあの理念［ロゴス、レゾン］に立ち返るのだと。（岩波文庫、山崎章甫訳）

さらにもろもろの芸術は多くのものを自己自身のうちから生み出し、他面、美を自己のうちにもっているがゆえに、完全さに欠けている場合にはそれを補う。（山崎章甫訳）

　こうしてフェイディアスは、感覚的に見たものは何も模倣しなかったけれども、ゼウスが私たちの目の前に現れたならばそう見えるであろうような像を感覚でとらえて神の像を作った。

**古代と向かい合い、それによって自己形成をするという意図を持って古代を真剣に見つめるならば、われわれは、はじめてほんとうの人間になる、という感覚を味わう**。

（別訳）**自己を形成するという意図をもって古代と真剣に向きあうとき、われわれは初めて本当に人間になるという感じを得られる。**

というのは、私たちが古代と向き合い、それによって自己を形成しようと真剣に考えるならば、私たちはその時はじめて本当に人間になれると感じられるからだ。（山崎章甫訳）

文学や美術の創作を解する感受性の持主は、古典芸術に接すると、きわめて快く精神的な自然状態に置かれるのを感じる。そして今日に至るまでなおホメロスの詩篇は、何千年にもわたる伝統が私たちに担わした重荷から、少なくとも一時は私たちを解放してくれる力をもっている。（山崎訳）

●『ヴィンケルマン』（芦津訳）

ひとたび芸術作品が産み出され、その理想的な現実とともに世に姿を見せるや、それは持続的な効果をもたらし、最高の効果を発揮する。なぜなら芸術作品とは全体の力から精神的に展開されるものであり、それゆえ**すべての卓越したもの、尊敬と愛に値するものを取り入れ**、**人間の形姿に魂を吹きこむことによって人間を人間以上に高め**、その生活および行為の円環を完結し、過去と未来とを包括する現在のために人間を神化するからである。

… es bringt die **höchste** hervor: denn indem es aus den gesamten Kräften sich geistig entwickelt, **so nimmt es alles Herrliche, Verehrungs- und Liebenswürdige in sich auf und erhebt, indem es die menschliche Gestalt beseelt, den Menschen über sich selbst, schließt seinen Lebens- und Tatenkreis ab und vergöttert ihn für die Gegenwart, in der das Vergangene und Künftige begriffen ist**.

私たちが古代人の叙述、報告、証言などから解明できるように、かつて**オリュンピアのユピテル**を眺めた人々は、このような感情に捉えられた。人間を神に高めるために、神が人間になったのである。彼らは至高の尊厳を目（ま）のあたりにし、**最高の美に胸を打たれた**。

**Von solchen Gefühlen wurden die ergriffen, die den Olympischen Jupiter erblickten**, …

**Der Gott war zum Menschen geworden, um den Menschen zum Gott zu erheben. Man erblickte die höchste Würde und ward für die höchste Schönheit begeistert**.

この意味において私たちは、「**この作品を見ずに死ぬのは不幸である」と心からの確信をもって語った**古代人たちを是認すべきであろう。…

In diesem Sinne kann man wohl jenen Alten **recht** geben, welche **mit völliger Überzeugung aussprachen: es sei ein Unglück, zu sterben, ohne dieses Werk gesehen zu haben**.

友情と美の二つの要求が同時に一つの対象において満たされるとき、人間の**幸福と感謝の念は、きわまるところを知らない**。そして人間は、**彼の所有物のすべてを、帰順と崇拝のささやかな印として捧げたいという気持ちになるであろう**。

**Finden nun beide Bedürfnisse der Freundschaft und der Schönheit zugleich an einem Gegenstande Nahrung, so scheint das Glück und die Dankbarkeit des Menschen über alle Grenzen hinauszusteigen, und alles, was er besitzt, mag er so gern als schwache Zeugnisse seiner Anhänglichkeit und seiner Verehrung hingeben**.

手本がほしかったら、絶えず古代ギリシャに帰らなければならない。その作品の中には常に美しい人間が描かれている。 (1827年1/31)

im Bedürfnis von etwas Musterhaftem müssen wir immer zu den alten Griechen zurückgehen, in deren Werken stets der schöne Mensch dargestellt ist.

**◎ロダン（レゾンの箇所）**

 【Ce ne sont que trois femmes assises, mais leur pose est si sereine, si auguste, qu’elles semblent participer **de quelque chose d’énorme qu’on ne voit pas**. 】（1092）

（高村訳）この三人の女が坐っているに過ぎません。がその姿勢が実に滑らかで実に高貴で、まるで**眼に見えない絶大なある物に関与している**気がします。

彼らの上にはまったく**大きな神秘が統治しています**。即ち、**無形な、永遠な「理法」［レゾン］**です。**これには全「自然」が服従します。そしてこの女神もまた彼ら自身その天上界の召使なのです**。

【**Au-dessus d’elles règne en effet le grand mystère** : **la Raison immatérielle, éternelle, à qui toute la Nature obéit** et dont elles sont elles mêmes les **célestes servantes**. 】(1092)

 【Ainsi, les **formes et les attitudes** d’un être humain révèlent nécessairement les émotions de son âme. Le corps exprime toujours **l’esprit** dont il est l’enveloppe. Et pour qui sait voir, la nudité offre la signification la plus riche. Dans le rythme majestueux des contours, un grand sculpteur, un **Phidias** reconnaît la **sereine harmonie**répandue sur toute la Nature par la Sagesse divine ; un **simple torse, calme, bien équilibré, radieux de force et de grâce**, peut le faire songer à la toute-puissante **raison qui gouverne le monde**.】（979）

（内藤訳）ほんとうをいえば、すべてが思想です。すべてが象徴です。

そんなわけで、**人間の形と姿勢は、必然的にその心の感動をあらわすのです**。肉体はつねに、その包んでいる精神のあらわれです。だから、物を見る心得のある人にとっては、裸体はもっとも豊富な意味をもつことになる。輪郭のおごそかなリズムの中には、**フィディアス**のように偉大な彫刻家だと、神の「叡智」が全自然の上にひろげた**うららかな調和**をみとめるのです。おっとりしていて、よく釣合がとれていて、**力と美しさとで光っている胴体**が、偉大な彫刻家には、**世界を支配している全能な理性［レゾン］**を思わすことができるのです。(979)

（古川訳）実をいえば、一切が理念（イデー）であり、一切が象徴なのです。

かくてこそ人間の形態(**formes**)と挙動(**attitudes**)とは、必然的にその魂の感情を洩れ明かすのです。**肉体は常に、それが包んでいる精神を表わします**。そしておよそ眺めうる人にとっては、裸体は最も豊かな意味を提供するのです。輪廓の荘厳なリズムの中に、偉大な彫刻家**フィディアス**は、神の叡智によって全自然の上に拡がっている**崇高な調和**を認めたのでした。**静かな、よく均衡のとれた力と美(grâce)とに輝く胴体**（トルス）はよく彼をして、**世界を支配する全能の慧智［レゾン］**に思いを致させるのです。

**芸術は人間にその存在理由［レゾン・デートル］を教えます**。

同代の人たちがその心の中に持ってはいながら、つまりは未知のものだったさまざまな豊かなものを発見させるのが芸術家なら、**生活愛の新しい意義［レゾン］を知らせ、行動のしるべとなる心の新しい光りに浴させるのがまた芸術家**です。

今の人間はほとんどみな、**仕事というものが人間の存在理由［レゾン・デートル］とも幸福とも見なさるべきだのに、それを必要でも恐ろしいことのように考えているらしい。呪わしい賦役のように考えているらしい**。